

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立向洋新町小学校	校長氏名	藤川 太恵子	生徒指導主事氏名	宝沢 均
-----	-------------	------	--------	----------	------

取組事例名 『学校に来にくい児童を野外活動に参加させる。』

取組のねらい『キーワード 野活にいこう』

不登校ではないが、起立性調節障害、心因性の胃腸障害のため（それぞれ1人ずつ。医師からの診断あり。）学校に来にくい児童を野外活動に参加させるためのよい機会ととらえて取り組んだ。この取組により、児童は自信をもって行動できるようになる。

取組の具体的内容『キーワード 安心できる野外活動』

家庭訪問し、準備物や活動内容など保護者と連絡を密に取る。

調子が悪くて休んでいるときにも、できるだけ家庭訪問し、活動内容を知らせるなどして本人を安心させるようにする。（そのとき、学校に無理やり誘うことはしなかった。）

体の調子がよく、学校に来ることができたときも、本人が立てたスケジュールで準備を整える。学校が安心できる場所だと印象づける。

野外活動当日の動きを想定して、臨機応変に対応できるようにし、まわりの子どもにも声かけをさせ、活動に参加させた。

取組の課題・創意工夫 『キーワード 病気を跳ね返す声かけ』

胃腸炎の児童は、現在、毎日登校することができるようになっている。

取組当時は、自分の教室に入ると何か言われるのではないかとという恐れがあり、それをだんだん慣らしていくためにふれあいひろばを利用する。そこで野外活動の楽しさを伝える。

起立性障害をもつ児童は、朝起きるのが困難であるため、時々、調子の良いときに学校に誘った。登校した日は、教室で過ごしたが、とても疲れている様子だった。それでも、友達の声かけにより、体はしんどいがそれを上回るやる気が湧いたようであった。

その他、教育委員会生徒指導課に相談し SSW の申請を行った。

取組の成果（効果）『キーワード 野活への参加、成功体験』

【野活での成功体験の後】

胃腸炎の児童は安心感を増し、本当に症状が悪いとき以外は、学校に休まず来るようになった。

勉強も、少しずつ始めている。また、時々自分のクラスで友達と話しをしたり、給食を一緒に食べることが出来るようになってきたりしてきている。

起立性障害の子どもは、SSW とともに連携し、朝が辛いようなら、昼前に迎えに行き給食を一緒に食べて帰れるよう取り組んでいる。週1回は学校に来ることができるようになったのでこの回数を増やすように話をしている。

クラスの子どもたちも、友達のための行動により、よい結果がでたので満足した様子であった。

今後の展開『キーワード 今後へ』

やればできる。という体験は自信につながったようである。

体調が悪くても頑張れば何とかできるという体験が得られた。今後、行事などに参加するときもこのような形でアドバイスしていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 魔法の薬 生徒指導の3機能』

問題を抱えた児童に、「話を傾聴する。」「共感的な人間関係が作れるように仕組む。」「自己決定の場を与える。」という場面を増やしていけば、自己有用感を持てるようになる。その結果はやる気となってよい循環を生む。

特別活動に限らず、活動が本当に楽しいと思えれば、困難（今回は病気）を乗り越える原動力となると思われる。